

島根大学・まち・人がもっとつながる

SHIMADAI

広報しまだい



SHIMANE
University

2017.10

vol. 34



特集

島根大学の国際交流

海外協定校から7名が参加 「サマースクール」を開催

本学39年ぶりの新設学部
「人間科学部」設置記念事業

地域のための人材育成
平成30年度理系学部・大学院改組

地方創生・地域イノベーションの創出に向け決意を新たに 新設「人間科学部」の設置記念事業を挙

本学39年ぶりの新設学部
設置記念式典を盛大に開催

7月17日(月)、新設学部として今年4月に開設した「人間科学部」の設置記念事業をホテル二畑において挙行しました。

記念式典には政界、経済界、官界、地元自治体、その他関連団体及び学生、教職員等、約130名が出席しました。服部泰直学長による式辞、来賓祝辞に続いて、村瀬俊樹人間科学部長より学部紹介があった後、学部1期生を代表して学生2名が抱負を発表、最後に、心理学、福祉社会、身体活動・健康科学の各コース教員によるシーズ紹介が行われました。

式典後には記念祝賀会が行われ、村瀬学部長の挨拶から来賓祝辞に続いて、来賓及び学内関係者による鏡開きが行われました。その後乾杯の発声で歓談が始まり、和やかな雰囲気の中、新学部設置を盛大に祝いました。



【特集3】

島根大学の国際交流

- ①サマースクール2017開催 …… 07
- ②留学生・留学体験紹介 …… 11

■島根大学の研究・地域貢献事業紹介

- ①人間科学部 清水悠 助教 …… 13
- ②医学部 福間美紀 准教授 …… 15
- ③エスチュアリー研究センター
齋藤文紀 教授 …… 17
- しまだい×島根のまち[浜田市] …… 19
- しまだい便り …… 21

■附属中横田さんテニスの国際大会で優勝 …… 23

- キラリ島大生 …… 24
- しまだい's サークル …… 25

■島根サノオマジック活動紹介

- 島根大学支援基金寄附者一覧
読者プレゼント …… 26

記念式典 来賓祝辞紹介



参議院議員
島田 三郎 さま

今、地方の国立大学を取り巻く環境というのは非常に厳しいものがあります。そんな状況の中で、島根大学が改革を行い、島根県としっかりタッグを組むという体制を確立していくことは非常に重要だと感じております。そして、今まで以上に国立大学と島根県、そして市町村が距離を縮めて、「一心二体」となって邁進して行くことこそが、将来の島根の姿であると思っております。ご承知の通り、今地方からは優秀な若い人材がどんどん中央の都市部に流れていく状況下でございます。そんな中、島根に生まれた子どもたちがこの故郷に帰ってくる、帰ってきてやすい状況を創っていくような努力していかねばなりません。そのためにも、島根大学の改革に期待するとともに、県民である私どもがしっかりと後押しをしていきたいと考えております。



島根県知事
溝口 善兵衛 さま

島根では人口減少や高齢化に伴い、県民誰もが生涯に渡り安心して生活することができると地域社会を維持・形成していくことが大きな課題です。そのためには生活習慣病予防、介護予防、高齢者の地域における生活の支援体制の構築や、障がい者の自立に向けた取り組みを進めることが必要です。こうした状況の中で、新たに設置された人間科学部は、県が目指す健康な地域社会づくりや福祉の充実に大きく貢献されるものと期待しております。そして、新学部の設置により島根大学が地域に貢献する地（知）の拠点として、その魅力をさらに高めていけることは大変意義深いことであり、私どもにとりまして大変ありがたいことでございます。新学部の設置により、高齢化や過疎化など県の直面する地域課題の解決に取り組む若き人材が輩出されることを大いに期待しております。



文部科学省 高等教育局長
義本 博司 さま

ここ島根県は、全国的な観点から見ますと、人口減少や過疎化、高齢化、さらにはそれに伴う地域コミュニティの維持・形成・活性化など大きな課題を抱えております。それらの課題をふまえて新たに人間科学部を設置し、地域社会で生活する人々の心と身体を共感的かつ客観的に深く理解し、地域実践力を身に付けた人材を育成していくことは誠に時宜にかなっており、全国でも初の先進的な取り組みであります。新たな人間科学部で優秀な人材が地域課題の解決を担う専門職として活躍するとともに、地域社会と連携をとることによって、様々な研究成果を全国に発信し地域社会の発展に大いに貢献されることを期待しております。また、文部科学省としましても、変化する社会状況に対応し取り組む大学を、引き続きしっかりと支援して参りたいと考えております。

島根大学・まち・人がもっとうつながる

SHIMADAI

広報しまだい

2017.10

vol. 34

【特集1】

人間科学部設置記念事業…………… 01

【特集2】

理系学部・大学院組織改組…………… 05

記念祝賀会 来賓祝辞紹介



島根経済同友会 代表幹事
川上 裕治 さま

今、この地方の経済界も少子高齢化からくる人口減少に伴う経済活動の縮小や若者の都市部への流出など労働者不足という大きな問題があります。こうした状況は、大学でも学生の確保という課題や運営の混乱を増していると感じます。そんな中、島根大学では、地域の自治体や経済界と連携し、地元の就職率アップやインターンシップへの参加などにも積極的に取り組んでおられると思います。そして、この学部の開設理念に基づき学んだ学生の高い見識と広い視野によって、地域への還元がなされることを大いに期待します。また、私も経済界におきましても、各々の企業がこの地域において企業の情報発信をしてお互いが魅力ある企業にならなくてはなりません。こうした取り組みを継続し、大学の取り組みと相まって地元就職率アップに絡むものと信じている次第であります。



海士町長
山内 道雄 さま

「心を知る・体を知る・人を支える」の教育理念のもと、重度障がいのある学生など、意欲のある学生を受け入れる人間科学部が4月に発足されたばかりですが、今、学生みなさんが生き生きと実践を繰り返しながら、意欲的に学んでおられる様子を敬意を表する次第でございます。

昨年度から開講されました、ふるさと魅力化フロンティア養成講座では、飯南町さんと私も海士町が現地研修のお手伝いをさせていただいております。これからも島根大学には、町づくり等なかとアイデアをいただき、人的交流でもご協力をお願いしたいと思っております。そして、島根大学が地域の中で、地域で支え、地域に根差す持続可能な未来を作る大学として、さらなる大学魅力化による地方創生を全国に発信していただくよう、大いに期待しております。

学部一期生の発表



人間科学部 1年
勝部 裕三郎 さん

健康に関する学びを故郷に還元したい

私の生まれた隠岐の島は相撲が盛んですが、年々相撲をとる人が減っています。それには大人の運動習慣が深く関わっていて、調べてみると高齢者よりも働く大人世代の方が圧倒的に運動する割合が低いことが分かりました。私はその問題を解決する方法を見つけて、島の人々の健康寿命を延ばせたらと考えています。県全体でも人口減少が進んでいる今、私たち若者が地域を元気にする方法を考え、将来地域に貢献できる人材にならなくてはなりません。そのためにも、今後は身体活動・健康科学コースに進んで、身体活動やスポーツを理論的に学び、運動が健康に及ぼす影響について深く勉強したいと思っています。また、地域での実習を通して、自分たちが学んだことを地域に活かす力を育てていきたいです。



人間科学部 1年
竹縄 未英 さん

様々な学びを通して夢の実現を目指す

私は将来、社会福祉士を目指して人間科学部に入学しました。人間科学概論という授業では、心理、社会福祉、身体活動・健康科学について少しずつふれることができるので、各コースに分かれる前にどの分野を専攻したいかじっくり考えることができます。例えば、私は社会福祉に関する勉強がしたいと思っておりますが、心理学の臨床心理の中で「相手の話をとにかく聞くこと、共感することが大事」とあり、相談者の大きな心の支えになるという面では、心理学を勉強することも社会福祉に活かせると感じました。将来は、県内の社会福祉協議会や地域包括支援センターなどで働き、島根県に福祉の面から貢献することを目標にしているので、この学部で人を援助する力をしっかりと身に付けたいです。



一般社団法人 国立大学協会
専務理事・前和歌山大学長
山本 健慈 さま

世界のすべてのシステムが、「非人間化」するなかで、「人間科学部」を創設し、島根大学の研究教育のコアに位置づけるといふ未来設計に敬意を表します。育った若者が、県民共同での「地域魅力化」実践に参加することは、島根県を輝くものにするでしょう。

島根大学と人間科学部への期待

地域からの 応援メッセージ



島根県商工会議所連合会
会頭
古瀬 誠 さま

人間科学部新設誠におめでとうございます。現在、人材育成に対して大学が担う役割は非常に大きいと考えております。この学部で学び、育った人材が将来、島根の地で活躍し、地域創生、地域活性化に貢献されることを心より祈念いたします。



奥出雲町
町長
勝田 康則 さま

少子高齢化が進み多様化する社会の中で、人と人との関わりや助け合いがより重要となってきております。人間科学部で高度な専門知識と能力を備えた職業人を育成され、住民の皆様が健康で安心して暮らせる社会になっていくよう大きく期待しております。



一畑電気鉄道株式会社
代表取締役会長
大谷 厚郎 さま

地方創生のためには、地域の様々な現場で、生き活きと働く若者が必要です。大学のキャンパスと地域とを行き来しながら、地域社会を構成する「人」を多層的に学び、理解する、ユニークでたくましい若者が育っていくことを心から期待しています。



山陰中央テレビジョン放送株式会社
代表取締役会長
有澤 寛 さま

実社会から多くの要望がある一方、即戦力が学問の目的では無いとする考え方もあります。多様化する現代社会においてコミュニケーション力は極めて大切で、「人間科学部」の開設により、社会で活躍する多くの人たちが輩出されることを期待しています。



株式会社谷口印刷
代表取締役社長
谷口 博則 さま

地域社会に積極的に飛び込み、さまざまな知見を重ねて人間力を磨いていただけることを期待しています。人間の心と行動を科学的に学び、主体的で地域への深い愛着をもった人材は、これからの社会になくはならない存在です。



山陰中央新報社
代表取締役社長
松尾 倫男 さま

1955年に92万人いた島根県の人口は現在、69万人を割り込んでいます。少子高齢化、若者の県外流出は地域の重要課題なため、地域貢献する人材育成をうたう新学部で、優秀な若者たちが大いに学び、この島根でのびのびと活躍されることを期待します。



松江北高等学校
校長
小山 理久 さま

地域社会のニーズが高い臨床心理士や社会福祉士など、こころとからだを知り、ひとをささえ、理論と実践を往還する力を持つプロフェッショナルの育成のみならず、島根大学が推進する地域創生に関連した教育研究の中心となることを期待しております。



山陰中央テレビジョン放送株式会社
常務取締役・報道制作局長
高尾 忍 さま

メールやSNSの浸透により、人と人との直接的な関わりが希薄になりつつある今、地域の人と直接触れ合う体験学習や、アクティブラーニングに重点を置いた実践的なカリキュラムで、コミュニケーション力・実行力の高い人材を育成されることを期待します。

地域からの要請に応じた教育体制へ 平成30年度 理系学部・大学院組織改組

地域からの要請と各学部・研究科の学科や専攻、コースとの関係



地域に貢献することを使命とする島根大学では、大学としての目指すべき改革、機能強化の方向性を明確にするため、平成30年度に「総合理工学部」「生物資源科学部」の理系学部改組を行うとともに、総合理工学研究科及び生物資源科学研究科を統合した「自然科学研究科 博士前期課程」を設置します。

地域のための人材育成 持続可能な社会の確立を

平成30年4月の開設を目指し文部科学省へ申請していた、総合理工学部及び生物資源科学部の改組並びに自然科学研究科博士前期課程の設置について承認されました。これを受けて、8月21日に新たな理系学部・大学院の概要等について記者発表を行いました。会見では、機能強化と組織改革の全体像と、

理系学部・大学院研究科の改組の趣旨・背景について説明があった後、両学部の改組概要と大学院自然科学研究科の特徴及び養成する人材像について説明が行われました。

両学部の改組では、特に地域社会から要請の高い分野の理工系人材を育成することを目標に掲げて、学科の再編等を行い(上図参照)、学部から大学院博士前期課程までの一貫した教育課程「学部・博士前期一貫プログラム」の導入によって、より高い研究能力と課題解決能力を引き出す教育を行います。

自然科学研究科博士前期課程は、これまでの2研究科体制ではできなかった自然科学系の幅広い教養教育を可能とし、理学、工学、農学にわたる幅広い学問領域を含むポイントを活かし、高度な専門知識と学際的視点を身につけた創造性豊かな、地域社会の発展に寄与する人材を育成します。

学部改組で
何が変わる？

Q&A 学部長 Interview

総合理工学部

Q 改組の背景は？

これまで2つの学部は教育内容の棲み分けを行ってききましたが、今の社会で求められるような科学技術イノベーションを担う人材を育てるためには、生物・非生物の枠を取り払い、幅広い学問分野で人材育成ができる教育体制の構築が必要でした。

Q 学生の学びはどのように変わる？

学部は、各学科の専門分野をより明確にし、基礎をしっかり身に付けられるように、従来の5学科から7学科へ再編しました。学部のカリキュラムに新たに「自然科学系学部共通科目」を設置し、総合理工の学生に生物学や農学に関する科目も履修してもらうことで、自然科学系という幅広いくりでみた教育を可能にしました。また、企業現場で行うインターンシップや海外就業体験を全学科で開



総合理工学部
学部長
廣光 一郎

理学と工学の確かな基礎知識や技術、コミュニケーション力、そして幅広い視野と柔軟な発想を持った人材育成を進めていきます。理工系人材の活躍の場は、全国から世界へと広がっていますが、そういう場で活躍できるグローバルな視野を持った人に、ぜひ地域で活躍し、地域社会の発展に貢献してもらいたいですね。

Q 改組によって在学生の学びも変わる？

在学生の皆さんは旧課程のカリキュラムで学習するため大きな変化はありませんが、一部、新課程の課題解決型授業を先取りしてカリキュラムに組み入れています。大学院に進学すると新課程になりますので、こういった科目の受講を促し、旧課程の学生の大学院進学を後押ししていきたいですね。

講します。このような課題解決型科目の充実によって、実践的な知識を身に付けることができます。

Q 改組の背景は？

生物資源科学部では平成24年に一部学科を改組し、その際に変更がなかった生物科学科と生命工学科を融合することが今回の改組のひとつの目的でした。また、大学院への進学を強化するために、学部の学科と大学院の教育コースが1対1で対応するような体制を整える必要がありました。

Q 学生の学びはどのように変わる？

生物学の基礎から応用までを融合した「生命科学科」を新設し、4学科から3学科へ再編しました。また、自分の興味を広げようするために、1年次は学科共通のカリキュラムとし、2年から各コースへ配属されます。さらに、「自然科学系学部共通科目」を設け、生物資源の学生に数学や情報、理工学の基礎知識を身に付けてもらいます。

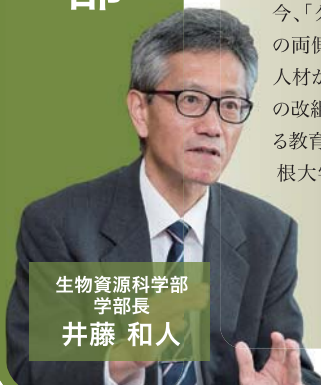
また、学部のうちから大学院の授業を受けることができるプログラムを導入しますので、大学院の様子を知ってもらうことで、進学を促していきたいです。

Q 改組によって在学生の学びも変わる？

大学院からは新課程になりますので、新しく設置する研究科共通科目や数理、情報分野などの科目を学際的な広い視野で学べるなど、今までになかった環境を提供できるようにいたします。ぜひ進学に興味を持ってもらいたいですね。

今、「グローバル」と「地域志向」の両側面から物事を考えられる人材が必要とされています。今回の改組で、そういった人材を育てる教育体制を整えましたので、島根大学で育った学生が地域社会で活躍することを期待しています。地域のこれからの発展に貢献する人材育成に努めていきます。

生物資源科学部



生物資源科学部
学部長
井藤 和人

【特集3】島根と世界の縁結び

島根大学の 国際交流

Shimane ∞ World



Episode

1

島根で日本の歴史や文化への理解を深める
海外協定校から7名が「サマースクール」に参加

様々な活動を通して
日本への理解を深める

本学では海外協定校の学生を対象に、毎年7月にサマースクールを開催しています。日本語力やコミュニケーション力を向上し、視野を広げることを目的としたもので、今年はケンント州立大学(アメリカ)と南京林業大学(中国)から7名の研修生が参加しました。

7月5日から18日にかけて、研修生は講義や学外活動、学生交流等を行いました。講義では島根の文化、歴史、日本事情及び日本語を学習し、学外活動では日本や島根をより理解し、さらに好きになることを目標に、在住外国人から島根での生活について聞く講義、出雲高校の生徒との交流、NPOの案内による町歩きフィールドワーク、部活体験等を行いました。また、2日間のホームステイで、日本の暮らしを体験しました。2週間の研修を通じて、研修生たちは自らの日本語力の向上を実感するとともに、日本の歴史や文化への理解を深めました。また、当初はほとんど知らなかった島根のことも好きになったようです。本学は今後もこのような活動を通じ、海外協定校との連携をより一層進めていきます。



1.学内で実施した交流会の集合写真。2.明治創業の醤油蔵を見学。もろみをかき混ぜる。3.堀川遊覧船に乗船。屋根が下がる場面では歓声が。4.浴衣を着て松江城周辺を散策。



出雲高校の生徒の案内で出雲大社を参拝。

イベントをきっかけに
さらに広がる交流の輪

研修生の滞在中の生活及び自由時間は、本学のサポート学生が担当しました。7月10日には、研修生と、サポート学生7名、さらに英語高度化プログラム・中国語実用化プログラムの履修生を中心にした20名の日本人学生との間で、「Have Fun with English」と題した学生企画の交流会を開催しました。

自己紹介の後、グループに分かれてジェスチャーゲームを行い、メンバーが交代するたびにジェスチャーが変わっていく様子に、大きな歓声が上がりました。また、開催時期が七夕に近かったことから、短冊にそれぞれの願い事を書いて、笹竹に飾り付けしました。さらに、折り紙にも挑戦し、大きな折り鶴をグループの皆で力を合わせて作りあげ、思い思いにデコレーションしていました。

短い時間でしたが、会場内は終始笑いに包まれ、学生たちはすっかり打ち解けた様子で、終了後にはお互いの連絡先を交換するなどしていました。研修生にとって、学生と楽しんだ時間が思い出に残り、サマースクール終了後も学生同士の国境を越えた交流が続いていくことが期待されます。



部活体験。研修生の中には武道経験者も。

ホームステイや文化体験を通じて
中国と異なるライフスタイルを楽しめた！

日本に来たのは北海道、岡山に続いて3回目です。今回のサマースクールには、異文化を体験したいと思って参加しました。日本のライフスタイルは中国とまったく違います。だからこそ新鮮なことが多くて楽しめたと思います。日本の生活を実際に体験できたホームステイは、とても印象に残っています。私のホームステイ先は出雲市のご家族でした。娘さんと一緒にカレーを作ったり、中国の料理を作ったりしました。また、

日御碕神社や二畑薬師、八重垣神社など、いろんな名所に連れて行ってくれました。最後の日には、娘さんが私に勾玉のアクセサリーをプレゼントしてくれて、私の宝物になりました。サマースクールに参加してみて、一番の収穫は日本語が上達したことです。それ以外にも一人で外国で行動することができるようになったことや、島根大学の学生との交流を通して、新しく良い人間関係が作れたことも大きな成長と感じています。

Voice 1



きよらく
許楽さん

南京林業大学(中国)



手まり作りに挑戦。

参加者の声



Voice 2



よかくえい
余学荣さん

南京林業大学(中国)



茶道体験でのひとコマ。

島根県は歴史遺産が多く、自然豊かな場所でした。堀川遊覧船に乗った時には綺麗な紫陽花を見ることができましたし、様々な場所で植物や木、花を楽しむことができました。特に、ホストファミリーと出かけた菅公高殿の近くにあった桂の木の大きさには本当に驚きました。サマースクール中とても印象深かったのは、日本人の丁寧さと礼儀正しさです。日本の人は私たちを見るとよく挨拶をしてくれますし、スーパーに行った時には、店の人に売

り場を聞くとわざわざ地図を書いて説明してくれました。とても親切だなと思いました。私は将来、日本語の通訳者になりたいので、まずは中国の大学院に進みたいと思っています。今回のサマースクールで日本語が上達した実感がありますし、人との交流の仕方も上手くなりました。また、自由時間に自分で予定を組んで、交通手段や時間を調べて出かけるのは難しかったです。が、海外で一人で生活することに繋がる貴重な経験になりました。

豊かな自然と人の温かさに触れながら
将来に繋がるスキルアップができた

Voice3



マンディリー ホスキンス
Mandy Leigh Hoskins さん
ケント州立大学(アメリカ)



気さくなホストファミリーと。

とにかく忙しかったけど充実した2週間
お互いの文化も共有できて楽しかった

日本語がもっと上手くなりました。日本の歴史や文化を学びたいと思い、サマースクールに参加しました。島根はとても綺麗で静かなところでした。みんなとても親切で、大学ではいろんなことを教えてくれました。一番の思い出はホストファミリーと過ごした時間です。ハワイが好きなホストファミリーで、私に分からない日本語を、娘さんが英語で教えてくれました。最終日の晩御飯はそうめんでしたが、日本のそうめんにビックリしました。普段私が

食べるハワイアンスタイルは、そうめんにとタサヤハムをのせて一緒に食べます。その夜は、日本とハワイ両方のスタイルを作って食べ比べを楽しみました。

朝から晩まで毎日予定がびっしりで忙しかったですが、日本について深く学ぶことができたし、最初は全然知らなかった島根のことも好きになりました。授業は少し難しかったですが、参加者の中国人学生や、島根大学のサポート学生が助けてくれて本当に感謝しています。



サマースクール

Voice4



マシュー イアン ミッチェル
Matthew Ian Mitchell さん
ケント州立大学(アメリカ)



初めての手巻き寿司作り。

毎日の会話で日本語が上達した！
初めての日本で友達の輪が広がった

日本語の勉強を始めてまだ1年で、正直日本語はうまく話せませんでした。でも、日本人の友達をたくさん作りたと思ってサマースクールに参加しました。日本人はとても親切ですし、日本の文化と歴史にも興味がありました。日本に来たのは初めてで、とにかく暑かったです。ホームステイ先は畳が敷いてある伝統的な日本家屋で、日本の生活が実際に体験できたことはとても貴重な経験でした。ホストファミリーは優しくて賑やか

な人たちで、一緒に手巻き寿司を作ったり、とっとり花回廊をはじめ、いろんなところに遊びに行きました。

島根に来てからは毎日、日本人学生や日本に留学中の海外の学生と、日本語で会話して練習しました。そのおかげで最初に比べるとかなり日本語が話せるようになりました。周りの人たちがサポートしてくれて、感謝の気持ちでいっぱいです。当初の目的だった友達もたくさんできて充実した時間が過ごせました。

Episode

2

国境をこえてチャレンジする学生たち

留学生・留学体験紹介

現在島根大学では、世界24か国・地域、87の大学と交流協定を結んでいます。毎年、多くの島大生が海外へ留学し、多くの留学生が海を渡ってやってきます。留学経験のある学生に、留学体験について伺いました。

FROM



出身校

リオデジャネイロ連邦大学 (ブラジル)

フラビア・ヌーネス・キタノ

FLAVIA NUNES KITANO さん

(教育学部 日本語日本文化研修生)

日本で体験した様々な文化を
ブラジルの友人たちに伝えたい

ブラジルでは日本語を専攻し、文部科学省の奨学金プログラムで来日しました。島根大学に留学経験のある先輩から話を聞いていたので、留学するなら絶対島根大学と思っていました。授業やアルバイト、在住外国人との交流などを通して様々な体験をしました。自国に戻ったら、この経験や日本の文化を後輩や友人に伝えたいし、実際に文化体験の機会を作りたいと思っています。例えば、着物の着付けを教えてもらったので、それをみんなに教えてあげたいですね。

2ヶ月間ほど、出稼ぎに来ているブラジル人の子どもたちに日本語を教える機会があり、教師の仕事に興味がわきました。将来は外国人向けの日本語教師になりたいです。最終的には日本で働きたいですが、まずはリオで、夢を叶えられるように頑張ります。



1. 島根大学の留学生や日本人学生と一緒に花見へ。日本の季節や行事も、自国に戻って伝えたいエピソードのひとつです。
2. 冬の鳥取砂丘にて。幻想的な景色に感動!

FROM



南京林業大学(中国)

出身校



もう いちがい
毛 一凱さん

(法文学部 日本語日本文化研修生)

積極的に日本文化を体験 将来は日本で働きたい

私の家族や親戚が日本で働いていたこともあって、小さい頃から日本を身近に感じていました。留学のきっかけは南京林業大学からの推薦でした。留学前に島根について調べると、神々の国や和菓子など様々な歴史や文化があることが分かったので、留学中には日本の伝統文化に触れてみたいと考えていました。平日の空き時間は、できるだけ文化体験に参加するようにしています。月照寺や八重垣神社に足を運んだり、狂言や能を見に行ったりもしました。また、日本語に慣れるために日本人の会話を積極的に聞き、分からないことはメモを取るようにしたおかげで、留学当初よりかなり日本語が上達しました。日本は住みやすいところなので、将来は日本で働きたいと考えています。残りの留学期間、できる限り様々な体験をしたいです。



1. 能体験に参加して、実際の衣裳を試着させていただきました。
2. 出雲市民会館で開催された野村萬齋の公演に足を運び、実際に狂言を鑑賞しました。



FROM



リヨン第3大学(フランス)

留学先



いいま はるか
飯間 陽佳さん

(法文学部 言語文化学科 4年)

自分の力で道を切り拓く 自身の成長を実感

「語学力の向上だけが留学じゃない!」と、強く感じた8カ月間で、小学生の頃からフランスに興味があり、フランス語を話せるようになるには現地に行くのが一番と考え、留学を決意しました。語学力は挨拶レベルだったので最初はとても苦労しました。積極的に現地の人と話す機会を作り、3ヶ月たった頃にはある程度理解できるようになりました。留学中、良くも悪くも一番記憶に残っているのは、電車の中でスリに遭ったことです。焦りながらも急いで銀行と警察に行つて状況を説明するなど、意外にも冷静に対応できたことで、どんな環境でも自分で考えて問題を解決する力が身に付いたこと実感するとともに、大きな自信になりました。留学経験そのものが、私を一回り成長させてくれたと思います。



1. 友人たちとバーにて、語学力を磨くためにバーにもよく行き、フランス語でコミュニケーションをとりながら勉強しました。
2. パリに行った際に、凱旋門ポーズで記念撮影。



スポーツから日常生活まで バイオメカニクスで 身体動作を科学的に解析

一流選手の動きを分析
モデル動作を作成

バイオメカニクスとは、バイオ力学と、メカニクス力学からなる造語。スポーツの動きやフォームを力学的な視点から考えるのが、スポーツバイオメカニクスという学問です。力を生み出す筋肉の構造や機能、エネルギーを供給する体の仕組みなど、あらゆる面から考察を重ねていきます。

たとえば助走を付けて遠くへ跳ぶ能力を競う「走り幅跳び」。走って跳ぶという動作の中で、走っている時の姿勢や力はどうなっているか、跳び出しの角度や脚をスイングする速度はどれくらいなのか——などに注目します。「一流選手の動作

スポーツの動作中に、身体の動きがどうなっているか、どこにどんな力が発揮されているかを分析する科学を「スポーツバイオメカニクス」と言います。人間科学部身体活動・健康科学コースの清水悠助教は、一流選手の動きを収集・分析、データ化し、さまざまな分野に活用できる研究を進めています。



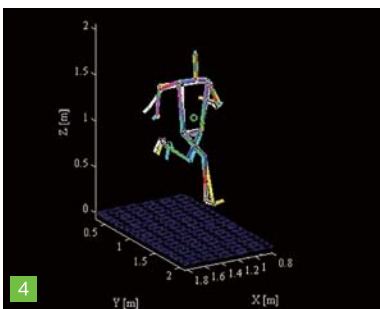
PROFILE

人間科学部 人間科学科

清水 悠 助教

しみず ゆたか

小学4年から大学まで陸上競技を続け、高校3年の時に出場した国体では三段跳びで3位に入ったこともあります。ビデオで動きをチェックするのは日常的でしたが、大学の時、身体動作も可視化された映像を見て感嘆したのが、研究を始めたきっかけですね。



1. 1. 体節にマーカを装着して様々な競技動作を計測。清水助教自身は走り幅跳びの動作分析を行っているが、ゼミ生それぞれが自分の専門競技で分析しているため、データ収集の幅が広がっている。2. 実際の撮影の様子(全景)。3. 家庭用ゲーム機で使うモーションキャプチャデバイスを使えば、リアルタイムでスティックピクチャを表示させることも可能に。4. DLT法による3次元動作分析。複数の選手の動きを重ねれば、共通する部分とバラつきのある部分を視覚化できる。



データを収集し、身長や体格、動作時間、利き足などを調整すれば、共通する部分とそうでない部分が分かります(写真4)」と清水助教。筑波大学の大学院生だった頃から、国内の主要な陸上大会に出向いては、国内外のトップ選手のデータを集めてこられました。

など選手それぞれの個性を生かした練習が求められます」。

心理学や福祉とのコラボで 新たな可能性も

競技が行われる場所に、あらかじめ座標を求めるときのポールを立てて3次元の計測空間を作り出す。1秒間に300枚撮れるハイスピードカメラを複数台使って競技中の選手を撮影し、パソコンに取り込むことで、動作が視覚化されるとい

清水助教は専門の陸上競技以外にも、バレーやテニス、ソフトボールなど様々なスポーツ動作を対象に研究を進めるほか、心と身体動作の関係性や高齢者のリハビリなどにも関心を寄せています。「精神状態が不安定な時は動作も乱れやすいことは知られていても、そのメカニズム自体は完全に解明されていません。心理学の先生とコラボすればユニークな研究ができるかもしれない。また福祉や医療の専門家とタッグを組めば、高齢者の運動機能改善プログラムを作ることができるようになります」。

高く踏み切る傾向にある日本人選手に対し、世界のトップ選手はスピードを生かしてより低く踏み切っている傾向にあることが分かりました。「熟練者が共通して持っている動作は、欠かすことのできない要素であり、そのような動作から優先的に模倣することは重要です。そうして一定のレベルに達した上で、個人の特徴——体格やスピード

さまざまな可能性を見せるバイオメカニクス。一流選手の競技力アップだけでなく、一般市民の日常生活の向上にもつながる研究に、今後層注目が集まりそうです。



オーダーメイドのケアで 生き生きとした暮らしを 高まる看護の可能性

個々に合ったケアで 認知症の予防や改善も

看護には、健康の回復や苦痛の緩和に加え、健康の保持増進、疾病の予防なども含まれます。福間准教授が今、力を入れているのが認知症の予防です。「判断力や情報の解釈力が低下している認知症の人は、危険予測ができにくいため、転倒のリスクが非常に高まります。さらに」上手に「転べないので、転倒すれば重症化しがちです。転倒が歩行機能低下、寝たきりを招き、健康寿命を短くしてしまうのです。しかし本人の状態に合わせて、こまめに注意喚起したり、行動予測をして危険物を事前に除去したりすることはできます」。

けがや病気に見舞われた時、健康回復に向けて専門的なケアをしてくれる看護師。看護学科の福間美紀准教授は、疾患だけでなく、生活環境や習慣、家族構成など全人的な視野から、よりその人らしい生活に近づけていくことを看護ととらえ、オーダーメイドのケアのあり方を探っています。



PROFILE

医学部 看護学科
福間 美紀 准教授
ふくま みき

島根医科大学に看護学科が新設された翌年の2000年に赴任。以来、出雲市や雲南市でのフィールドワークを積極的に行って、研究にフィードバックしています。私の研究は、地域の皆さんの協力があってこそ成り立ちます。熱心で意欲的な方が多く、本当に感謝しています。



1



2



3



4

1・2.平成24年から出雲市で実施している認知予防教室の様子。65～85歳の希望者を対象に、講演や軽運動、けん玉、料理のレシピ考案などを行っている。3.年に1回開催される日本医学看護学教育学会で、福間准教授が担当した学生が卒業研究の成果を発表。4.コロナド州セント・ジョセフ病院で行っている看護学実習や医療安全の実践(研修、教育、委員会ラウンド)を視察した際の様子。

人によっては生活環境が症状を悪化させていることもあり、その場合、適切なケアやアドバイスでかなり改善できるそうです。「環境や家族構成、患者の性格なども考慮して、看護のあり方を提案していく必要があります。認知症があっても、健康な領域を増やしてあげれば生活の質は上がります。個人の状態に合わせて生活を整えることで、その人らしい暮らしに近づけていくのが看護という仕事なのです」。

福間准教授は2012年から、NPO生活習慣病予防研究センターの一員として市民向けの認知症予防教室も担当しています。軽い運動や筋肉トレーニングに加え、脳トレやバランス力を回復するプログラムなどを実施。3ヶ月間教室に参加し、エピソード記憶力や歩行力が上がった高齢者が多くいたそうです。「皆さん真面目に取り組まれるので成果も上がっています。コツは「楽しく笑いながら」です」。これまで出雲市内の3地区で実施。教室終了後も多くの参加者が自主グループを作って、継続的な活動を行っています。「島根の人には新しい提案や考えなどを穏やかに受け入れ、上手に活用していく力

があるように感じますね」と福間准教授。

細やかな看護の力で QOL向上を支援

看護の可能性に関心が高まったのは、九州の大病院の看護師として働いていた時でした。「重大な交通事故や脳出血などで、医師が『植物状態や後遺症は避けられない』と判断した患者が、周囲のケアで意識が回復し、日常生活も送れるようになったケースが多数ありました。意思疎通できない患者にも、看護師は普段と同じように声を掛け、食事や衛生的な援助を行い、ベッド上でのリハビリを行う。家族は名前を呼び、話し掛け、手を握る。それが脳への刺激となったのかもしれない。治療以外にも、看護の力で健康を回復することができるとはと考え始めました」。

生まれたばかりの赤ちゃんから高齢者まで、生き生きとした暮らしを送るために健康は欠かせません。福間准教授は、「マニュアル通りではなく、オーダーメイドのケアでQOL(クオリティ・オブ・ライフ)を高めるお手伝いができれば、と思っています」と話します。

海や湖の堆積物から 地形や環境を探る エスチュアリー研究



アジアの大河川を調査 デルタの変遷を解明

エスチュアリーとは、狭義では河口部の海水と淡水の混合域を指しますが、広義では沿岸湖沼と周辺低地や沿岸海域なども含みます。沿岸域の堆積物や沖積層を長年調べ続け、デルタ(三角州)研究を牽引してきた齋藤教授は、「平野の地下や海や湖の底の堆積物を調べることで、今の地形の形成過程や過去の環境を知ることが出来ます。また地盤の強度なども分かるため、建築物を設計する際には重要なデータとなります。エスチュアリーを冠した研究機関は、国内唯一です。島根から、研究の重要性を広めていければ」と意気込みます。

齋藤教授の専門は、地質学の中で



PROFILE

エスチュアリー研究センター
齋藤 文紀 センター長 教授
さいとう よしき

研究・調査で様々な国や地域の文化に触れられるのも楽しみです。ベトナムを訪れた時には、初日の歓迎会でコブラ料理を振る舞われ、フルコース11品を頂きました。ウナギよりこってりした味で美味しかったのですが、血や心臓を混ぜた焼酎には参りました(苦笑)。

ラムサール条約にも登録された中海・宍道湖。豊かな汽水域に隣接する島根大学では、25年前に国内唯一の汽水域研究の拠点を設置。今年度からは「エスチュアリー研究センター」と改名し、より広い視野から総合的に汽水・沿岸環境と生態系の研究に力を入れています。齋藤文紀センター長に話を聞きました。



2



4



3

1. ベトナム、メコンデルタでのボーリング調査。 2. メコンデルタ、チャービン地域での海岸浸食。流域のダム建設やマングロープの伐採等により、デルタの環境は悪化の一途をたどっている。 3. メコンデルタ、カンボジアで採取したボーリング試料。右上が地表で、左下が33mの深度。 4. メコンデルタ、ベトナムのチャービン海岸での潮間帯の砂州の堆積物調査の様子。



1

も堆積学。泥、砂、礫などの堆積物の運搬過程や地層の形成過程を研究する分野です。特に、自然環境変化の激しい時代「第四紀」（260万年前から現在）に注目してこられました。

1990年代後半からは、研究が遅れていたアジア地域を訪れ、黄河や長江、メコン河など世界有数の大河川を先駆的に調査。ボーリングによって、地域の詳細な地下地質と古地理を明らかにしてきました。これらの成果は、完新世（約1万年前から現代）のデルタ形成に関する模式（基準）として引用され、アジア地域の研究に大きく貢献し、さらなる詳細な調査も可能にできました。

例えばメコンデルタの研究では、完新世に形成された海の地層をカンボジア国内で初めて確認。8000（8300年前）に最も海が広がり、世界的な海面上昇も伴ってマングローブが拡大したことも明らかにしました。「黄河デルタを調べると、黄土高原では過去約1000年間の森林伐採によって緑が失われ、土壌の保持力が低下し、黄河に大量の土砂が運ばれてきたことが分かりました。同様のことが長江やメコン河でも行われて

いたことも推定できました。人間の活動がどのようにデルタ形成に影響するか。研究を進め、デルタの環境保全も考えていければ」。

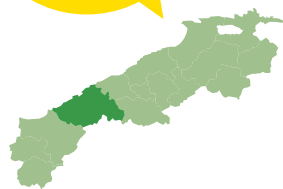
たたら製鉄が生んだ 独特な斐伊川河口部

アジア地域の研究に加え、今、齋藤教授が興味を抱いているのが斐伊川河口部です。「世界中の多くの川が、森林伐採のために過去約1000年の間に山が荒れ、土砂の運搬量が増えています。斐伊川流域の場合も、たたら製鉄で砂鉄を採取するために行われた“鉄穴流し”の結果、土砂が大量に放出されました。でも、田部・絲原・櫻井家の三大地主がいたため、山の適切な管理が行われ、森林は残りました。切り崩された山では、当初はそこでそばを作り、土地が肥えてくれば米を栽培し、また、多量の土砂は、平野を拡大し、水田が形成されました。先進的に“持続可能な開発”を行ってきた非常に面白い地域で研究意欲がわきます」。

出雲平野やたたら製鉄の歴史、国引き神話の解明なども、齋藤教授の地質学的アプローチで違った側面が見えてくるかもしれません。

今回紹介する
自治体は…

浜田市



しまだい × 島根のまち

各学部・学科単位で県内様々な市町村とのつながりをもつ島根大学。その広いつながりの中で、大学と地域、2つの要素が合わさったとき、一体どのような効果が生み出されているのか。具体的な取組みを交えて紹介します。

浜田学スケジュール

1班 農業生産学教育 コース(35名)

講義(浜田の水産業)

市場見学・
しまねお魚センター見学

やさか共同農場訪問

水産事業者への
聞き取り調査

2班 農村経済学教育 コース(19名)

市場見学・
しまねお魚センター見学

講義(浜田の水産業)

水産事業者への
聞き取り調査

水産加工業の企業訪問
まとめ・ディスカッション



7月8日、浜田市において、農林生産学学科の農業生産学教育コースと農村経済学教育コースの1年生等54名が、漁港や農場を視察しました。本学と浜田市は、平成22年に生物資源科学部と包括的連携協定を締結し、その後平成27年に、より緊密な連携協力を推進するため島根大学として連携協定を締結しました。

5月18日に行われた連携推進協議において、生物資源科学部の授業の一環として浜田市を訪問し、水産業及び農業関連施設を視察し考察する「浜田学」の実施が決定しました。

農林水産業が抱える
課題解決の糸口を探る

浜田学

×

生物資源科学部

一般の人が大学の方に気楽に行けるようなイベントがあれば広報してほしいです。

(島根県松江市・70代女性)

若い学生の皆さんはとても積極的で、私の若い頃とは比較できないと思います。90歳も元気を頂きました。

(島根県大田市・90代男性)

すばらしい研究にとっても感激しました。これからもさらなる飛躍を期待しています。

(島根県江津市・40代男性)



浜田市ってどんなところ？

鳥根県西部に位置する浜田市。美しい海や山に恵まれ、漁業や農業が盛んに行われています。石見神楽やユネスコの無形文化財遺産に登録された石州半紙などの伝統文化、しまね海洋館アクアスなどの観光資源を有するほか、大学、美術館をはじめとする教育文化施設も充実し“自然・文化・人”の調和のとれた魅力あふれる中核都市です。



視察先の人との交流で現状への理解を深める

学生たちは事前に見学先について予習し、当日の視察に臨みました。浜田到着後、各コースに分かれて、浜田市役所の方から「浜田の水産業」についての講義を受け、市場と「しまねお魚センター」を見学しました。午後から、農業生産学教育コースの学生は「やさか共同農場」で収穫物の六次産業化について、また、水産事業者から浜田の水産物のブラ



ンド化の取り組みについて話を聞きました。農村経済学教育コースの学生は水産加工業の企業を訪問し、浜田の水産業の現状と課題についてディスカッションを行いました。いずれのコースも、学生が生産者や事業者に積極的に質問する様子が見られました。

松江―浜田間を日帰りというタイトなスケジュールでしたが、学生たちは、学内の講義だけでは得られない、現地で生産者の生の声を聞いたり、実際に体験したり、自ら積極的に行動することの大切さを実感したようです。また、学ぶことはもちろん、そこからどのように行動し、問題を解決していくのかについて考える良い機会になりました。

参加学生の声

2班



農村経済学教育コース1年
岡部 真心さん

浜田の水産業の現状を学んでいたつもりでしたが、データだけでは語れない当事者の苦労や工夫を知り驚くことが多かったです。関係者の方も真剣に答えてくださり、今まで少し遠くにあった浜田の水産業を身近に感じることができました。疑問を疑問のままにせず、一歩踏み込んで聞くことが大切だと感じました。

1班



農業生産学教育コース1年
川瀬 貴大さん

今回は浜田漁港とやさか共同農場の生産者の方に話を聞きました。2つの異なる業種ですが、全国へ発信したり、県外から浜田市に人を呼んだり、どちらも浜田を活気づけるために様々な工夫をされていて、地元貢献したいという想いを強く感じました。実際に肌で感じることで新たな発見がたくさんありました。

読者の声

広報しまだい
vol.33に
寄せられた声
をお届けします。

もっと地域と交流して
活性化してほしいと思います。

(鳥取県米子市・20代男性)

地方大学でありながら、すごく
積極的に様々な事に取り組んで
いらっしゃる姿に感動しました。

(鳥根県安来市・70代女性)

しまだい便り

大学の旬な情報をお届け

島根大学が学内外問わず行っている多彩な活動の中から大学の今がわかる選りすぐりの情報をお伝えします。

TOPICS

1

重症外傷患者のさらなる救命率向上を期待 高度外傷センター棟完成記念式典を挙



医学部附属病院C棟棟西側に高度外傷センター棟が完成し、8月5日(土)に記念式典および内覧会が行われました。本棟は、1階に外傷初療室と、国公立大学初導入の「ハイブリッドER」を配置し、2階に医局、3階には手術室2室を新設しました。「ハイブリッドER」では、重症外傷患者の治療と検査を同室で実施できるため、救命率のさらなる向上が期待されます。C棟棟1階で行われた完成記念式典では、来賓70名の方々に臨席を賜りました。溝口善兵衛島根県知事と森本紀彦島根県医師会長から祝辞をいただいた後、服部泰直学長と井川幹夫病院長が挨拶を行いました。その後、渡部広明高度外傷センター長が事業内容を紹介し、「県全域の外傷患者を集約し、救命・機能回復を目指す災害医療の拠点として、高い水準の外傷・救急医療を展開します」と説明しました。式典後、高度外傷センター棟正面でテープカットを行い、式典出席者内覧会を行いました。午後からは地域住民を対象とした内覧会を行い、最新の機器などに大きな関心を寄せていました。

TOPICS

2

本学のさらなる発展を目指して意見交換 島根県経済団体との懇談会を開催



7月3日(月)、第6回目となる「島根県経済団体と島根大学との懇談会」が、松江市内のホテルにて開催されました。この懇談会は、地元経済界・産業界の方々に本学の現状、今後の取り組みの方向性等を説明し、意見交換を行うことで、協力・協働関係をさらに発展させることを目的としています。今回参加いただいた方々からの貴重なご意見を、今後大学が行う様々な取り組みに役立てていくこととしています。

TOPICS

3

鳥取県内の現職教員学生の学びをサポート 教職大学院鳥取サテライト教室を開設



鳥根大学教職大学院は、本年度から鳥取短期大学内に鳥取サテライト教室を開設し、7月27日(木)に開設式を行いました。サテライト教室は、鳥取県内から本学に通う現職教員学生をサポートするための施設として開設。遠隔講義システムで、本学に通わず講義が受けられるほか、周辺の教員で研修会等を行うことも可能です。この教室を有効利用し、現職教員学生の力量形成とともに、教育力向上が期待されます。

文学的内容が多く感じるので、もう少し工学的物造りや山林開発などの研究を増やしてほしいです。

(鳥根県松江市・70代男性)

鳥根から世界へアイデア発信、すばらしい事だと思いました。

(鳥根県隠岐郡・30代男性)

孫の進路に助言するのにとっても参考になりました。

(鳥根県出雲市・80代男性)



7月26日(水)、島根県警察サイバー防犯ボランティアの委嘱式が行われました。サイバー防犯ボランティアとは、インターネット上の違法・有害情報を発見するサイバーパトロールや、サイバー犯罪撲滅のための広報活動への参加等を行うもので、本学からは102名の学生が委嘱を受けました。委嘱式終了後、学生たちは研修会に参加し、ボランティアの活動内容やサイバー犯罪の現状についての研修を熱心に受講しました。

TOPICS

5

インターネット上の違法・有害情報を発見 サイバー防犯ボランティアの委嘱式を開催



島根大学松江キャンパスでは、8月5日(土)に法文学部・人間科学部・総合理工学部、8月6日(日)に教育学部・生物資源科学部、出雲キャンパスでは8月6日(日)に医学部で平成29年度のオープンキャンパスを実施しました。当日は、各学部による企画、保護者対象企画、学生によるランチタイムイベント等を実施しました。出雲キャンパスでは、10月15日(日)にもオープンキャンパスを実施する予定です。

TOPICS

4

島根大学を様々な角度から知るチャンス 平成29年度オープンキャンパスを実施



学生が日頃行っている研究を企業に紹介し、参加者間で意見交換を行う「学生による研究発表会&産学交流会」を7月5日(水)に実施しました。本学の総合理工学研究科、生物資源科学研究科の学生13名と松江高専の学生2名が、日頃行っている研究について3分間のショートプレゼンテーションとポスターセッションを行いました。その後、活発な意見交換が行われ、最後に学外の参加者は、研究室を見学しました。

TOPICS

7

学生と企業による貴重な意見交換の場 学生の研究発表会&産学交流会を開催



7月23日(日)朝酌艇庫において、島根大学漕艇部の大國後援会会長と漕艇部OB臨席のもと、新艇「水凧」の進水式が開催されました。創部60周年を記念して、島根大学漕艇部後援会からドイツ・エンパツハ社製のフォア・クオドルプル兼用艇をご寄贈いただきました。進水式では、多賀神社の宮司による神事が執り行われ、その後ボート部による初漕ぎを行いました。本学ボート部の益々の活躍が期待されます。

TOPICS

6

創部60周年を迎えたボート部の活躍に期待 島根大学漕艇部に新艇が寄贈されました

テニスの国際大会で優勝

島根大学教育学部附属中学校 横田七帆さん(3年生)

今年5月、アメリカフロリダ州で行われた「IMGアカデミー主催の「ディスカバリー・オープン」で、附属中学校3年生の横田七帆さんが女子14歳以下の部で優勝しました。

「IMGアカデミー ディスカバリー・オープン」は未来のテニス界を担う逸材の発掘を目的とした世界大会です。日本予選をベスト4で突破した横田さんは、フロリダの本選で日本、オーストラリア、中国の代表8人を下し、栄えある優勝に輝きました。

小柄な横田さんの持ち味は、とにかく走ってねばりながら、積極的に出て行くプレー。そんな横田さんがラケットを握り始めたのは小学1年の頃です。松江市出身のプロテニスプレイヤー 錦織圭選手も育ったテニススクールに通い、同じコーチの指導の

もと、毎日練習を積んできました。実は今回の国際大会が、海外初試合だったという横田さん。「日本とはまったく違う環境なので不安もあったけど、わくわくする気持ちが大きかった」と、日本では戦うことが少ないパワータイプの海外選手との対戦

も新鮮な気持ちで臨めたようです。これまで国内では、中国大会の上位に入るものの、全国での実績はほとんどありませんでした。今回の勝利について、「新しい環境をしっかりと楽しめたこと、緊張することもあったけど、自分のプレーがしっかりとできたことが勝利に繋がったと思う」と振り返ります。

初めての海外戦を経験して、さらに明確になった「世界で活躍できる選手になりたい」という目標。そこに向かって自らの課題を分析しながら真剣にテニスと向き合う姿は、今後のさらなる飛躍を期待させてくれます。

テニスを始めたきっかけは本当になんとなくだったのですが、毎日の練習は、大変よりも楽しいという気持ちの方が大きいです。自分の展開に持ち込んで試合を進めて、点が決められた時のうれしさと爽快感、そこがテニスの一番好きなところですよ。



島根大学
教育学部附属中学校
横田 七帆 さん(3年生)

荒れた森林を元気にしよう!
私たちは森林保全の輪を広げる活動を展開しています。

みんなが
環境を守ろう!

山陰合同銀行

島根大学オリジナル芋焼酎
神在の里 好評発売中

生物資源科学部神西砂丘農場で栽培された
サツマイモから誕生した「芋焼酎」

●神在(かみあり)の里(720ml) 2本入りセット...3,200円(税込)

島根大学生協同組合
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 Ⅱ0852-32-6240
<http://omise.seikyoku.jp/shimane>

新聞の
折り込みで WEB
フリー
サイトで ペーパーで

お仕事見つかる
メリット

求人情報

梅取・島根のおしごと探し
Webメリット

株式会社メリット
松江市古志原5-2-43
TEL.0852-23-1749

キラリ★島大生 学びのチカラ ④



このかおり
河野 香織 さん

医学部 医学科 3年

松江市出身。医療事務として働くうちに医療についてもっと学びたいと思うようになり、一念発起して医学部に入学。

日頃から専門的な研究や地域で活躍する学生たち。そんな輝く島大生の教育・研究等の活動を集めるシリーズ企画です。今回は、eクリニックを利用しながら医療英語学習に積極的に取り組む医学部医学科の河野さんに、取り組み内容や今後の展望について伺いました。

日本語が話せない人たちへの ケアもできる医療者を目指して

先生方の手厚いサポートが
様々なチャレンジを可能に

「医療者を志すにあたって、英語は必要不可欠」と話す河野さんが、毎日のように通っているのが、eクリニック（医学部英語学習支援室）です。河野さんの入学と時を同じくしてオープンしたこの施設は、英語書籍やパソコンなどが揃い、英語学習の場として医学生に利用されています。このeクリニックの先生方の手厚いサポートがあったからこそ、様々なチャレンジが可能になったと河野さんは言います。その一つが、「Team Medics(※)」の勉強会への参加です。「月1回の勉強会は東京が会場なので、毎回行くのはなかなか



スカイプでの勉強会参加の様子。

か難しく、参加について先生に相談したところ、出雲からスカイプで参加できるように、必要な備品をすぐに準備してく



セミナーの様子。グループに分かれてディスカッション。

ださいました。学生がしつかり学べるようにサポートしてくださるのは本当にありがたいです」と話します。

今年の6月には、河野さんの発案で聖路加国際大学のゴータム・A・デシパンテ先生を講師に招き、セミナーを開催しました。「3月に東京で医学生・研修医向けセミナーに参加した際に、先生の講義がとても楽しくて、これはぜひ島根に来てもらって、他の学生にも楽しさを味わってもらいたいと思ったんです」と河野さん。先生に直接依頼し、医学部でのセミナー開催が実現しました。

英語力に磨きをかけて
患者さんに還元していきたい

近年の日本では、日本語を母国語としない人たちも増加し、そういった人への対応が必要だと河野さんは話します。「例えば、私たちが海外で体調を崩した時に、どの病院に行けば良いのか、きちんと言ってもらえるのか、料金は大丈夫かなど、現地の言葉が分からないと不安だらけですよ。それは、日本に来た外国の方も同じだと思っんです。まずは英語で、日本語が話せない人のケアができたらと考えていますし、そんな医療者が少しでも増えたらと思っています。」

そんな河野さんの次のステップは留学です。「外に出ることで、日本の医療の在り方について考えたいし、海外の医療や医学教育の実際を現地で見てみたい」と、期待が膨らみます。河野さんの挑戦はまだまだ続きます。

※Team Medics…英語で医療サポートを行う医学生有志団体。関東圏の医学生が中心となって、月に一度勉強会を開催。

しまだい's サークル

Shimadai's Circle

各キャンパスでそれぞれの特色を生かして活動する島大生。運動系や文化系はもちろん、大学を飛び出して活動する団体もあり、活躍の幅は様々です。そんな各団体について、実際の活動内容を交えて紹介します。

松江キャンパス

プレプレ まつえキッズ



1. 活動は毎回20~30名弱の学生が参加。子どもの参加者は、市内の幼稚園や小中学校にチラシを配布して募ります。 2. 「城東プレーパーク」との合同開催のひとつコマ。道具の運搬用に用意したリヤカーで遊ぶなど、子どもたち自らが遊びを生み出します。

子どもたちが伸び伸びと遊べる場を提供

子どもたちが自ら工夫して遊びを作りだし、自分の責任で自由に遊ぶ「プレパーク」。松江市内でこの活動を行う学生団体が「プレプレまつえキッズ」です。たき火をしたり、料理を作ったり、木工体験をしたりと内容は様々で、現在は月1回ペースで開催しています。代表の森脇さんは「毎回来てくれる子どもも多く、回を重ねるごとに皆の成長が見られるのがうれしいです。保護者の方からも、普段家では見せない子どもの表情が見られて良かったなどの声をいただいています」と、活動の手応えを語ります。参加者とともに作り上げるこの遊び場が、今後さらに子どもたちで賑やかになるように、精力的な活動が続きます。



チームワークを高め、成果に繋げていく

旧島根医大からの歴史を持つ「ラグビー部」。プレイヤー30名、マネージャー18名の大所帯ですが、実はほとんどの部員がラグビー未経験。週3回の練習は自分たちでメニューを考え、試行錯誤しながら技術の向上をはかっています。「限られた練習時間で集中するためコール&レスポンスを心がけています。また、ケガをしないように学年関係なく気付いたことを言い合える雰囲気作りも心がけています」と、幹部の長谷川さんは話します。目下の目標は、西日本医科学学生総合体育大会と、中四国大会での勝利です。あと一步のところまで踏み張れる「勝ちにこだわる姿勢」も見せていきたいと抱負を語ってくれました。



出雲キャンパス

ラグビー部



1. 特に平日練習は、講義や実習等で全員が集まることはほとんどありませんが、1~3年生が中心となって練習に励んでいます。 2. 日々の基礎的な練習に加えて、定期的に近隣大学との交流試合を開催するなど、実践的な練習も行っています。



いよいよB1が開幕!新ステージへの挑戦 新生スサノオの戦士にエールを!

昨シーズン、見事B2リーグを勝ち抜き「B1昇格」を果たした島根スサノオマジック。10月からいよいよB.LEAGUE2017-2018シーズンが開幕し、B1という新たなステージで、新生スサノオマジックの歴史がスタート。スサノオ戦士たちの新たな戦いの始まりとなります。ぜひ会場で彼らを後押しする熱い声援をよろしくお願いします。

島根スサノオマジック公式HP
<http://www.susanoo-m.com/>

最新情報は
こちらをCHECK!

島根スサノオマジック

検索

お問い合わせ先

島根スサノオマジック事務局
0852-60-1866 (平日10時~18時)

#0

佐藤 公威
(SG)



生年月日: 1984/4/23
出身地: 新潟県
身長・体重: 186cm/84kg

#1

岡本 飛竜
(PG)



生年月日: 1993/4/20
出身地: 鳥取県
身長・体重: 170cm/78kg

#5

山本 エドワード
(PG)



生年月日: 1986/12/2
出身地: 鳥取県
身長・体重: 174cm/80kg

#7

渡邊 翔太
(G)



生年月日: 1993/6/26
出身地: 兵庫県
身長・体重: 180cm/75kg

#9

熊谷 宜之
(SF)



生年月日: 1985/12/2
出身地: 神奈川県
身長・体重: 190cm/83kg

#10

波多野 和也
(PF)



生年月日: 1982/4/19
出身地: ブラジル
身長・体重: 192cm/97kg

#11

後藤 翔平
(G)



生年月日: 1992/8/5
出身地: 北海道
身長・体重: 180cm/80kg

#18

相馬 卓弥
(SG)



生年月日: 1991/7/5
出身地: 宮崎県
身長・体重: 182cm/78kg

#21

ブレンダン・レーン
(PF)



生年月日: 1990/11/19
出身地: アメリカ合衆国
身長・体重: 206cm/106kg

#22

小阪 彰久
(PF)



生年月日: 1992/2/22
出身地: 大阪府
身長・体重: 197cm/97kg

#24

レイション・テリー
(SF)



生年月日: 1984/4/7
出身地: アメリカ合衆国
身長・体重: 202cm/110kg

#40

ジョシュ・スコット
(C)



生年月日: 1993/7/13
出身地: アメリカ合衆国
身長・体重: 208cm/112kg

島根大学
支援基金
寄附者一覧

個人からのご寄附

ご協力ありがとうございました。 ※平成29年5月1日~平成29年7月31日にご寄附いただいた皆さま(五十音順・敬称略)

赤間一仁 伊藤文彦 上園昌武 上野 誠 内尾祐司 江口博晴 金山富美 河添達也
神田真理子 菅野哲介 木村亜矢子 倉橋 幸 作野広和 佐藤利夫 地阪光生 杉江実郎
須山弘一 高木 晃 高橋 順 田坂郁夫 多々納充子 出口 顕 永田まち子 長塚正明
野村泰弘 服部泰直 福岡龍一 藤田達朗 馬庭壯吉 水野 薫 門城祐司 谷野 章
山口修平 山崎文子 吉田昭寿 渡部洋二

島根大学では学生に対する修学支援及び社会貢献事業を充実させるため、「島根大学支援基金」を募集しています。寄附書はホームページにも掲載しておりますが、郵送もいたしますので、お問い合わせください。

TEL 0852-32-6015 (総務部総務課支援基金担当)

ホームページ http://www.shimane-u.ac.jp/fund/fund_recruit/

※ご寄附をいただいた皆さまの中で、「HP等への掲載を希望しない」とされた方は、掲載しておりません。

編集後記

秋分も過ぎ秋を感じるころとなりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。今号の特集記事のサマースクールは猛暑の中の取材でしたが、研修生のみなさんが学生さんや地域の皆様との交流を通じていろいろなことを学ぶことができ、とても充実した研修であったと笑顔で話してくれました。

今号の記事でも多くの学生が地域に飛び出し活動していますが、皆様からのたくさんのご支援をいただいていることに改めて感謝申し上げます。

10月からは後期の授業が始まり、学生さんでもまた新たな気持ちで学生生活をスタートするとことと思います。10月以降も大学祭を始め、さまざまなイベントが開催されますので、ぜひ大学へお越しいただき、島根大学の今を感じていただければと思います。

今後ともよろしく願いいたします。

投稿の
お願い

「広報しまだい」は、島根大学と地域の方々との相互理解を大きな目的としています。島根大学から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々からの島根大学に関する話題、島根大学に対する要望、その他ご意見、ご質問などをお気軽にお寄せください。ご投稿お待ちしております。

投稿
先

〒690-8504 松江市西川津町1060 島根大学 企画広報情報課
TEL.0852-32-6603 FAX.0852-32-6630

E-mail gad-koho@office.shimane-u.ac.jp

HP <http://www.shimane-u.ac.jp>

PRESENT

ご意見をいただいた皆さまの中から抽選で10名様に、島大農場で収穫・加工された「トマトジュース3本セット」をプレゼントします。

※当選者のお知らせは発送をもって代えさせていただきます。

※応募締切/平成29年12月8日必着



島大会員のご案内



「島大会員」について

島根大学は、島根大学支援基金を通じて本学を応援して下さる皆さまと絆を深めていくことを目的として、平成29年10月から「島大会員」を発足させることといたしました。

会員の皆さまには、本学から会員証を発行し、本学の活動等に係る情報発信、会員相互及び本学と会員とのよりよい関係を築くための交流企画の他、寄附金額に応じた特典をご用意させていただきます。

次世代を担う本学学生を育てるために、皆さまのご加入をよろしくお願い申し上げます。

加入方法

島根大学支援基金へ一定額(5,000円)以上ご寄附いただいた方はどなたでもご加入(永年会員)いただけます。

1 平成29年7月以降にご寄附いただいた方の加入方法

- 寄附書等の「島大会員」入会希望欄にチェックして加入申込み
- ホームページ上で加入申込み

2 平成29年6月以前にご寄附いただいた方の加入方法

- 本学からお送りする加入申込書により加入申込み
- ホームページ上で加入申込み

※加入申込み受付後、会員証をご送付します。



お問い合わせ先

島根大学 総務部 総務課 支援基金担当
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060

TEL 0852-32-6015

E-mail sienkk@office.shimane-u.ac.jp

詳細は島根大学ホームページをご覧ください。支援基金担当までご連絡(TEL 0852-32-6015)ください。

島大会員 検索



人とともに 地域とともに
国立大学法人
島根大学

<http://www.shimane-u.ac.jp/member/index.html>